

第2回永青文庫セミナー

# 時習館100年の運営あれこれ

熊本大学客員教授

川口 恭子

平成19年10月10日(水)

於:放送大学熊本学習センター3F講義室

## 時習館100年の運営あれこれ

川 口 恭 子

### 【目次】

- 1 温知録について
- 2 学校職員組織  
職員 学校目附 士役 学校横目 学校役人 物書 手伝 荒仕子  
勤務内容
- 3 学校経費  
30人扶持  
御附銭  
余分返上 省略による減額
- 4 建物増築  
講堂 習書齋・新習書齋 句読齋 文庫 居寮 二の丸稽古所  
畳数 障子数
- 5 正月13日 開講式の模様
- 6 藩主の講堂御入り
- 7 居寮生について  
資格  
人数  
外出・門限  
施設  
賄い
- 8 文庫・書物  
蔵書冊数  
蔵書目録の作成・点検・曝書  
書物の補修  
書物購入費  
閲覧  
学生への書物購入斡旋

### 『時習館に関する史料』

時習館学規 再春館会約 学校方格帳 時習館并東西榭教法  
時習館学校職員 居寮生之儀ニ付控帳 (新熊本市史 史料編 第3所収)  
熊本府学校文武芸誘掖次第

## 1 温知録について

学校年々覚帳之部

成立 安政3年（1856）5月起筆 同年6月朔日卒業

形態 26.0×19.2cm 和綴 墨付 96丁

文化6年まで 朱頭注あり

内容 年号の下の名前は御役人帳より

宝暦4年（1754）より安政3年（1856）まで

## 2 学校職員組織

### 1) 職員数の推移

	目附	士役	横目	役人	物書	手伝	荒仕子
1754 宝暦 4	2			2	1		
1755 宝暦 5	3			3	3	3	
1763 宝暦 13	2	1	3	3	4		
1790 寛政 2	2	1	3	3	8		
1821 文政 4	3	1	3	3	10		
1834 天保 5	3	1	3	3	8	20※	9※
1837 天保 8	3	1	3	4	8		
1856 安政 3	3	1	3	4	10		

※「熊本府学校文武芸誘掖次第」による

### 2) 学校目附

文武の師範および諸生の淑慝・作輟を監督し、毎月主君へ報告、これによって賞罰などがある。  
日勤。3人のうち1人宛輪番で館中・東西榭を巡検し、諸生の精・不精、芸術の厚薄を監察、  
師弟の礼を正し、業を励ますように心を付ける。（誘掖次第）

### 3) 士役

諸役人の中心となり、米銭出納など監督する。

定例3・8講積日、文芸試業の節、講堂に詰め、軽輩などを監督。（誘掖次第）

### 4) 横目

学校目附に属し支配を受け、監察の補助をする。泊り番は輪番。（誘掖次第）

宝暦13年5月15日付 勤方3ヶ条

1 講日に御横目所に詰める。

2 学校経費の受払い・諸受け取り物に押印。

- 3 軽輩・陪臣の夕飯後両榭稽古の見分。朝夕の道具改め、夜中の居寮生その他の出入りに立ち会う。

## 5) 役人

米・銭の出納を受け持ち、居寮生の賄いなど取り計らう。

普請・造作・書物の買い入れ・器具の修繕・文武芸の諸道具一切の面倒をみる。

泊まり番は輪番。(誘掖次第)

宝暦13年9月付 勤方稜々書付

初めて学校・両榭が取り立てられ、桜馬場櫓にあった書物等を学校に引き移した。創設より10ケ年が経過したが、皆怠慢なく日参し昼夜勤めた。

最初から総人数は200～300人ときめられていたが、ここに至って、凡そ仕事もきまったので、規則を決めたい。

- 1 学校文庫書物は凡そ12,000巻位で、その整理は、儒官教授秋山儀右衛門・藪茂次郎を始め5人・句読師4人・居寮生7～8人が行うが、その受け取り渡し、帳面作成し、押印する。
- 2 御前本の預かり。
- 3 故実・算用稽古道具の出納。
- 4 両榭7軒の師範34～5人、その稽古道具の出納。
- 5 両榭道具の補修・点検・報告。
- 6 学校・両榭施設の点検・報告。
- 7 居寮生および儒官・句読師、賄を認められた者10人から14～5人、20人への賄い取り計らい。
- 8 書物の寒干。以前は夏土用干であったが。
- 9 両榭見分・火の用心。
- 10 学校用品の受け取り。墨・筆・紙、油・蠟燭、炭・薪、茶・塩、膳部・器物。
- 11 東・南門の開閉。6時明け立て。
- 12 藩主が郊外で、鉄砲打ち方等御覧の時、また総教の追廻等で見分の時の1人出向。
- 13 その他。

勤務体制(天保10年)

総人数	4人	内	1人	当番	朝4時～8時迄。
			1人	泊番	夕8時～翌朝4時迄。
			1人	泊明	日々当番に代わりあい、引き取る。
			1人	加番	帳口1人日勤。

## 6) 物書

同上 役人勤方稜々書付のうち

館榭の着到・諸書付を扱う。文庫の書籍 経・史・子・集・国と部を分け管理し、教官・諸生の希望に応じ出納する。

## 7) 手伝

それぞれ受け持ち部局の諸用事をする。茶・煙草の世話をする。

泊まり番は輪番。

寛政2年6月付 定手伝以下の心得方書付

中尾又平は輪番ではなく日勤し、定手伝以下、荒仕子に至るまでの中心となって、火の用心は勿論、不敬にならないように、役間のことは他言しないように。

- 1 居寮の賄いの品々、味噌・醤油に至るまで無駄のないように、充分入念に検査し、粗悪品は突き返す。
- 2 賄いの香の物などの仕込みの時も、充分気をつけること。
- 3 諸局からの書類の通達を間違ないように。
- 4 手伝中の1局だけでなく、臨時の御用にも対応すること。
- 5 学校内の施設に留意すること。
- 6 勤務の有り様、不心得者などは、すぐ報告すること。
- 7 役間よりの通達に違反しないように。
- 8 火事の時は、昼夜に拘わらず 駆け付けること。

## 8) 荒仕子

水・薪・味噌・茶を扱う。居寮生の飯を炊き、湯を沸かし、諸方への使いをする。

泊まり番は輪番。

勤務体制 文政6年

- 1 当番の外1人、朝5時前に出勤し、夕方8時半引き取る。
- 2 並出勤の者は、毎朝5時出勤、夕方7時引き取り。
- 3 出勤したら、名札を提出、役間へ通達。
- 4 病気の場合は、名代を立てること。
- 5 小細工方の者は、非番の時、御雇として使われるので、朝5時出勤、夕7時引取。

心得方 弘化3年7月

- 1 諸事格別取り締まりの通達。
- 2 遅刻しないように。余儀ない理由のある時は、役間に届け出る  
こと。
- 3 無用の雑話をしないこと、不敬にならないように。
- 4 館中にての飲酒禁止。
- 5 使いに出た時、不遜・不敬でないように。
- 6 祝席・集会についての規則を守ること。
- 7 集会・加禄・新役の節は、相局同役以外は、他局より1人宛招請すること。
- 8 新参見知りは、仲間中の招請はよろしい。外役からは、当用詰定手伝当分手伝1人宛、他局は見合わせ。両榭荒仕子新参は、その局のみ。外からは庄屋のみ招請。

### 3 学校経費

#### 1) その変遷

宝暦 4年12月29日	時習館へ30人扶持 (学校方格帳 以下格帳と表示)
宝暦13年 8月	宝暦5年正月より 30人扶持 儒官賄料 1人扶持宛 居寮賄料 2人扶持宛 塩は1ヶ月 6俵宛
宝暦13年10月	30人扶持の外に、毎年、銀100枚付置かれる。(格帳)
安永 2年 5月	御附銭4貫300目のうち、1歩減額を命ぜらる。
安永 3年 8月	30人扶持、年分54石のうち、1歩減額を命ぜらる。
安永 7年12月	30人扶持、銀150枚。
享和 3年 2月	御勝手向難渋に付、時習館・再春館居寮など差し止めらる。(格帳)
文化 6年12月	御附銭減額なく、7貫600目下さる。
文化 7年 5月	居寮復活 (格帳)
文化 9年11月	居寮以前の通り旧復 (格帳)
文化13年11月	居寮人数制限なし (格帳)
天保 2年12月	省略に付、6歩減額命ぜらる。
天保 3年12月	6歩減額では出来ないの、今迄通り。

#### 2) 天保14年6月現在の出費

1 賄費用	文政3, 4年迄	1ケ年	1貫6, 700目
	現在	1ケ年	5貫1, 200目
	居寮増人分		3貫 430目余
2 習書齋渡しの手本類			
	文政年中迄 小紙1束 5匁7, 8分	1ケ年	1貫5, 600目
	現在 " 10匁	1ケ年	6貫目余
			4貫4, 500目増
3 槍術・剣術・長刀等の師役渡しの道具類			
	以前は、	合計	1貫 235匁
	現在		1貫 736匁
			500目増
4 直御雇	以前は2人であったが、3人増員、さらに教授局使令から直雇兼務1人で合計4人の増員。心附米1人1石4斗銭60目宛4人分5石6斗 銭240目出費増。筆墨料1人1ヶ月2匁宛1ケ年96匁。他に、朝詰・夕詰の賄料。		
5 士席役人以下、付物書までの御心付合計	1貫865匁。 以前は集銭から出されたが、現在は御附米銭余分と薪炭・味噌・醤油類の残分から。		

- 3) 弘化3年正月 学校御附米銭、諸品3割減
- 1 去年以後、3割減となるもの。
    - 1 学校御附米銭
    - 2 御書物買い上げ代銀
    - 3 射術弓弦代
  - 2 当10月以後、年々渡し下さる分。
    - 1 小紙 157束3帖36枚
    - 2 薄墨紙 97束2帖12枚
    - 3 達磨形墨 76挺
    - 4 龍形朱墨 150挺
  - 3 これ迄通り、減らし渡し下される分。
    - 1 習書斎席書切延紙
    - 2 学校御目附墨代銀と館榭畳替費用
    - 3 居寮増築に付、八方行灯1ヶ年種子油
    - 4 教授・助教・訓導中への朱墨代銭
    - 5 学校役間渡し筆紙墨
    - 6 長熨斗・並熨斗代
  - 4 これ迄通り。
    - 1 5斗 土器・切熨斗 1ヶ年分
- 4) 安政3年4月  
御附米銭余分、総高24貫目を、貨殖のため、1ヶ月2朱宛の利分で貸し出す。

## 4 建物増築

- 1) 講堂
- 1 宝暦9年9月12日より工事が始まり、翌年6月17日竣工。  
藩主居間と家老間、講堂より家老間の間箱檀、玄関も少し広くなり、4間となる。溜の間まで建て添え。  
他に、南表側は27間であったが、腰懸と四足が建てられ、馬繋ぎが出来た。  
東側に塀30間新築。河喜多三左衛門屋敷には、的場塚その他稽古所が出来た。  
総教長岡内膳忠英の見分所である。
  - 2 天保2年 講堂東側畳14畳分、東西建継所16畳分、合計30畳
  - 3 天保5年9月 増築 9月24日地突
- 2) 習書斎
- 1 寛政元年6月 増築 経費 10貫145匁 20年賦
  - 2 文政5年閏正月 建継 (格帳)
  - 3 新習書斎 文政12年3月 古習書斎の物置を新習書斎に場所替。  
安政3年 増築

- 3) 役間と書物蔵の間の雨覆 寛政元年7月 3間
- 4) 教授局の天井・雪隠  
 1 寛政5年4月 天井がなかったなので、2間半×2間の天井、  
 雪隠1ヶ所、後、文政12年に雪隠模様替え  
 2 教授局を2階建てにする 天保9年 2階を作る 9畳
- 5) 文庫  
 1 3間×6間であったが、書物が増加し、収容しきれなくなったので、  
 新しく文庫蔵を建てた。 経費は、樞方にある学校集銭より。  
 2 天保7年9月 修繕
- 6) 句読齋 天保6年4月 増築
- 7) 居寮 天保8年3月 補修と増築 畳は極上品の七嶋表
- 8) 二の丸稽古所 嘉永5年閏2月 新設  
 安政元年閏7月 地方揚方
- 9) 畳替  
 天保2年 1ヶ年の経費 5,60目
- 10) 畳数 天保12現在

◇ 従来のもの

場所		枚数
館中	太牟田表	116
〃	七嶋表縁付	241半
〃	耳組表	52
両樹	太牟田表	95
〃	七嶋表縁付	98
〃	耳組表	22
〃	〃 中綴	178
計		802半



◆増加分

場所		枚数
講堂新齋	太傘田表	27
句読齋	七嶋表縁付	10
習書齋	〃	7
御役間	〃	4
台所・小細工所	耳組表	9
東御門番所	〃	1
両榭下屋建増分	七嶋表縁付	19
居寮格別畳	〃	72
中局	〃	14
計		163

合計

965枚半

11) 障子数 天保12年現在

◇従来のもの

場所	枚数	
館中腰障子	77	
窓障子	133	内 館中67 両榭66
館中明かり障子	9	
両榭長窓障子	20	
館中窓打付張	35間分	
計	239と35間分	

◆増加分

場所	枚数	
講堂新齋障子	22	内 中障子8
教授局2階中障子	8	
記録局腰障子	4	
講芸齋中障子	6	
句読齋腰障子	4	
習書齋 〃	8	内 張子窓 2
新習書齋窓障子	2	
小細工所中障子	6	
計	60	

合計

299枚と35間分

## 5 正月13日 開講式の模様

- 1) 宝暦10年 儒官・両樹師範へ御酒を下さる。  
学校20畳の間で、儒官の講釈初めがあり、池邊平太郎が「大学」を講読。次いで、上の間で、総教が酒を頂き、両樹の師範・士席以上が20畳の間に揃い、儒官は奥の間先生寮に参会。故実方・句読師・居寮生も奥の間官生口まで列座にて御酒頂戴。軽輩の師範は先生寮次の間にて、算用方・役人は詰間にて御酒頂戴。  
  
料理：御吸物・御肴・御口祝三方熨斗  
御吸物（鯛ヒレ） 御肴 中皿（鰯、生姜酢） 重箱（人参・牛蒡）  
坪（うち牡蠣、胡椒の粉）  
料理経費 62匁6分 酒代 35匁 肴代 10匁4分  
野菜・味噌・醤油代合 108匁5分。学校余米のうちより出費。
- 2) 宝暦11年 講堂が出来たので、15日に講堂で行われた。
- 3) 寛政5年 毎年、御祝酒の残りは居寮生がいただくが、居寮人数が増加したので、塾長中山市之進からもう少し潤沢にありたいと申し出た。居寮生に下さるのは年に一度のことであるので、まずは5升取り寄せ、4升半使った。
- 4) 享和3年 御酒頂戴差し止め。（格帳）
- 5) 文化元年 省略に付、御酒頂戴なし、熨斗・鏡餅は例年通り。
- 6) 文政4年 御酒頂戴、以前の通り（格帳）
- 7) 文政12年 御祝用切熨斗200把希望のところ、120把下さるが、1把の大きさが小さくなった。
- 8) 天保2年 御祝用長熨斗10把・並熨斗220把・予備50把。
- 9) 毎年 説教が終わり、講堂・句読・習書に出精した者へ、総教の会釈があり、終わって、音楽・管弦あり。出席者、御酒頂戴などは同上。（誘掖次第）

## 6 藩主の講堂御入り

### 1) 宝暦10年9月15日

南門より入御。講堂階下にて下乗。三洲志津摩・堀平太左衛門・平野新兵衛ら薄縁まで出迎え、直に御居間に御着座。御口祝済み、南向きに出座される。

西側に志津摩以下列座し、秋山儀右衛門以下儒官、東側に列座してお目見え。御意あり。面々退出。次いで、両樹師役召出され、中敷居際まで、2, 3列に並び、独礼以下の師役は中敷居より外の方に並び、一同にお目見え、御意あり。

御帰りは、同じ所から乗輿。南門より還駕。南門内東樹で、清田新助・学校目附・両樹師役の者、東樹8間の前通、土席以上、西樹居合の間前通りに独礼以下の師役揃ってお目見え。中門内西側に、秋山儀右衛門以下儒官・句読師・故実師・算術師・居寮生、玄関前で学校役人、いずれも麻袴着、出入りの節ともにお目見え。

### 2) 宝暦11年正月15日

出席者は麻袴、4半時集合。

- 1 出席者は、時習館玄関より出入りすること。揃所にはそれぞれ懸札がある。講堂への出席は使番が案内、座着は、小姓頭・中小姓頭・使番より指図をうけること。
- 2 藩主出座の講日には、5時半集合。南門より出入りすること。その日は中門内に簀を敷く。御物頭以下御供の者は中門外に残ること。雨天の時は草履取1人召し連れること。
- 3 講堂に入御の日の両樹稽古はよろしい。
- 4 御花畑御座敷支配の御掃除坊主が、御間内の掃除。
- 5 東門より講堂裏入り口より入御。
- 6 東門内の押さえとして、歩御小姓2人出る。
- 7 講堂玄関前番所に足軽3人詰め、2人は立ち番、中門内多門内外見締め。
- 8 着座以下の出席帳記入のため、学校役人1人・付物書2人が、帳付所に詰めること。翌日、総教へ提出。

### 3) 寛政4年12月

御供の御小姓頭はじめ、総御供の者へ、朝5時半より夕7時、或いは7半頃迄、茶瓶・火鉢等を差し出す。

当日は勿論、前日から総出で、朝6時から暮まで掃除等を行うので、入御の節々炭2俵・薪2束格別渡される。

### 4) 寛政6年8月7日

御供の歩御使番頭以下休息所へ、茶・煙草盆差し出す。

5升入り薬缶1      3升入銅茶瓶2      小袋焼茶碗15      借用

## 7 居寮生について

### 1) 資格 成績優秀な者

- 文政元年5月 1 学業出精の見込みのある者  
2 人物の見込みのある者  
3 詩文出精の見込みのある者 (格帳)

### 2) 人数

- 宝暦13年 9月現在 7～8人  
安永 6年 6月現在 19人  
享和 3年 2月 御勝手向き難渋に付、時習館・再春館居寮差止。(格帳)  
" 7月 居寮生自炊の居寮願い出、許可さる。(格帳)  
文化 7年 5月 自炊の居寮生もすべて退寮。これから自炊の名目ではあるが、御心付として1人前250目宛下され、6人程居寮を許可され、水汲み荒仕子1人付けられる。(格帳)  
" 8年 2月 4人増員し、合計10人居寮(格帳)  
" 9年11月 居寮旧復。  
経費は梅洞開徳米廬方納のうちから。2貫目余。(格帳)  
" 13年11月 10人であったが、以後、人数制限なし。  
天保 2年 8月現在 以前は10人ときまっていたが、人数制限なし。  
天保 9年12月現在 25人

### 3) 外出・門限

- 宝暦13年9月 夜5時迄、病気の時は役間に届け、何時でも出入可。  
寛政 4年3月 夜4時限り、東門より出入り、従来通り。門限後帰館の者は、前もって役間に通知すること。ただし、帰省中で門限に遅れた者は門番から役間に通達、指図を受けて通る。  
門出入りの際は、門札を自身持参。詩会・文会の節は、門札なく出入りすること。

### 4) 書物拝見

- 宝暦12年 居寮生は何時でも書物を拝見できる。  
寛政 4年 1人前 10部宛。但し、十三経・五経大全等は、そのうちの一经1部、四書大全・津逮秘書等の類は全部で1部とする。  
御側御本拝借は、教授・訓導へ申し出、指図をうけること。  
拝借の書物に書込み・句読を付けたり、囲を加えたりしてはいけない。  
天保 6年 冊数制限なし。

文政2年から天保5年春までは、10部宛拝借であったが、それでは不足で、塾長や師員の名前を拝借して借り受けるなど、混乱が多かったので、塾長佐々布仙九郎が教授に伺い、冊数制限なしとなった。

5) 賄い

宝暦13年 朝夕、夜食。賄いの品々は毎日直買、白米は白米所から受け取る。  
 明和9年 並味噌 1人分1度に5勺宛、醤油1賄に1勺6才宛、  
 薪 1ヶ月60束。  
 安永2年 燈油 居寮生人数8人で5斗6升7合のところ、居寮生増のため、3斗  
 1升4合増願。  
 安永3年 燈油 居寮生13人、1ヶ月入用6升4合余に付増渡願。  
 味噌 1人分1日1合宛、醤油1日3勺2才宛。  
 種子油 行燈1に、1夜2勺5才宛。  
 安永4年 炭 3月～9月1日5合宛、10月～2月1日4合宛。  
 天明3年 去年12月より本年秋迄、賄は無菜の1汁、香の物のみ。  
 この頃入塾の井手八郎・安野形助2人には、以前の通り、1菜出すよう藪  
 孤山より申し出、そのように取り計らう。  
 天保2年 賄 1ヶ年1人に対し、1貫目位。  
 天保7年

1 居寮生1人1ヶ年の積もり。

1	錢	377	匁	5	分	6	厘	米	2	石	9	斗	3	升	6	合	5	勺	9	才
2	錢	144	匁					味噌	3	石	6	斗	[		]					
3	錢	9	匁	7	分	2	厘	醤油	1	斗	8	合								
4	錢	126	匁					炭	36	匁	1	俵	に	付	3	匁	5	分	宛	
5	錢	49	匁	4	分	4	厘	葦北薪	48	束										
6	錢	6	匁	3	分			炭薪高橋より舟揚賃												
7	錢	100	目	8	分			油												
8	錢	2	匁	5	分			[		]										
9	錢	60	目	5	分			塩	3	石	3	斗								
10	錢	70	目					野菜物代												
11	錢	50	目					肴代												
12	錢	25	匁					漬物代												
13	錢	100	目					桶具買上代												
14	錢	57	匁	2	分			畳表替												
15	錢	4	匁	5	分			障子代												
	合							1貫249匁4分7厘												

- 2 居寮生賄 米 1日1人に付、白米7合5勺宛。  
味噌 // 1合4勺宛。  
醤油 // 4勺宛  
塩 1ケ年 2升位
- 3 頂戴の肴 1人前100目位、何魚のきまり無く、鯛・鯡、  
その他、有りあわせのもの、鮮魚のない時は干万引等。
- 天保 8年 朝夕は、以前の通り、1汁1菜であるが、菜1種増加、昼・晩にお平を出す。  
肴は月に6度、今迄は上身だけであつたが、以後は骨・頭とも見計らい出す。
- 天保14年
- 1 6度の肴は上魚で、酒・塩を用いるので、経費増加。  
文政3, 4年頃迄 1ケ年 1貫6, 700目  
現在 // 5貫1, 200目  
居寮増人分 3貫 430目余
- 2 味噌は米麴であつたが、以後は麦麴に品替。
- 3 野菜物・肴類・漬物代等、1ケ年分  
文政 3年始 1貫533匁6分余 居寮生14, 5人  
1ケ年1人分 126匁8分程  
天保12年 4貫990目余 酒・塩代共 居寮生20人内外  
1ケ年1人分 311匁8分6厘程  
184匁7厘程増加
- 安政 2年 味噌・醤油 賄所仕入直段と市中売買直段の比較  
味噌 1ケ年6石7斗2升5合6勺 1斗に付代米1斗4升2合7勺  
市中直段 1斗に付掛目5貫目 斤に直、31斤2合2勺  
10斤に付 5匁4分替  
醤油 1ケ年2石8斗5升9合7勺3才 1斗に付代米1斗1升8合  
市中直段 1斗に付18匁宛  
代銭渡しよりも現品渡しが良い。
- 安政 3年 肴を下さる日  
毎月 朔日・4日・9日・15日・19日・24日

## 8 文庫・書物

### 1) 蔵書冊数

宝暦13年 冊数は凡そ12, 000巻程、教授秋山儀右衛門・藪茂次郎、その他、草野雲平・池部平太郎・辛嶋茂助・岩下吉右衛門・古屋鼎助、句読師4人、他に秋山孫太郎・岩下吉太郎、居寮生7~8人が、毎日整理し、帳面に記録。  
この他に、御前御預りの書物2, 000巻程ある。

天保10年9月現在            12, 733部      32, 230冊  
御前御預御蔵書          271部          5, 049冊

2) 蔵書目録の作成・点検・曝書

宝暦13年    秋山儀右衛門以下により作成。同上。

寛政3年7月   村本頭次により御蔵本目録仕立、小口書等。

文政4年4月

- 1 蔵書は村本亮助受込みに仰せ付けられ、現改め（点検）は毎年、横目・役人が立ち会って行う。不明のものは、物書から村本へ報告する。
  - 2 蔵書は、経・史・子・集・国書の部分けをし、物書が銘々受持ち、毎日、出入の度毎に、横目・役人が立ち会って、印鑑を押す。
  - 3 諸生に対しては、以前は貸出されていたが、この頃は、毎日、閲覧のみになったので、紛失がないようになった。
  - 4 蔵書のうち、何時ごろ紛失したかはっきりわからないものがあつたが、去年の冬の現改めの時から、紛失の書籍は、別紙の書付の通りである。
  - 5 これまでは、紛失分は目録を消していたが、以後は紛失目録書別紙を添えるようになった。
- 6月11日 辛嶋才蔵から、訓導・句読師・習書師達へ通達され、もし紛失したら、役間へ届け、調査をするようになった。
- 1ヶ年経過しても出てこない時は、不念の段、書付を以て、役間へ報告し、政府へ差出す。

3) 書物の補修

天明5年 8月    破損の蔵書修理に張付師1人、定付にする。吉田源四郎。

寛政2年12月    小細工吉田文兵衛、1ヶ月受持で交替。

〃            定付は出来なくなり、町職人2人。

〃 3年 正月    小細工仕事、唐本裏打・仮張・刷上げ・仮閉・脇裁・表紙拵・平張上閉・糸掛・外題付。

1冊50丁にして、1冊手入れ日数5日程。

和本 1ヶ月に15冊 唐本6冊出来る見込み。

帙仕直しには、それだけまた日数必要。

〃            小細工 町職人2人としたが、定付1人にもどす。

10月    小細工 上江清次郎書物修復御用。

享和2年 5月    上江清次郎 御指物御用に転役。その跡1人後任を探すが、

9月    清次郎、又、学校御書物御用となる。

文化13年2月    中嶋喜角 学校小細工になる。

天保 4年4月    欠本、又は、冊数のうち損の書物の写し継に、講堂生のうち軽輩2人書写受込み、1人に金子200疋宛。

〃 8年4月 蔵書入箱を新しく作成。

#### 4) 書物購入費

寛政3年10月 1ケ年 銀子2貫目宛

書物は天明6年からは、御本方御出方を以て、買上げになり、それ以前は、御附銀のうちから出されていた。天明6年から6ケ年の書物代の1ケ年平均は976匁余。1ケ年1貫目として通帳を作成、切手を出して購入。極く高価な書籍買上の場合には例外とする。

文化3年2月

今度は厳しい御儉約であるので、格別に得難い珍書は伺いを出し、詮議する。  
一般の書物は、買い上げを一切見合わせる。

安政元年12月

書物代は御銀所へ預方になっているので、これからは、預通帳を作り、印鑑を押して支出すること。

#### 5) 閲覧

寛政4年12月 前出 居寮の項参照

文政4年 7月 学校役人は書物は閲覧のみ。

天保6年 4月 前出 居寮の項参照。

〃 9月 試業御用として拝借の場合、話し合って貸し出す。

#### 6) 学生への書物購入斡旋

天保7年7月 講堂生・句読生に対し、10ケ年賦で、書物の購入の世話をすることになった。

- 1 希望する者は、正月中に書類を提出すること。
- 2 1人に1部宛。
- 3 希望の書類を通帳に仕立て、役人印鑑を押して提出する。
- 4 書物が大坂より着いたら、帳面に記入し引き渡す。
- 5 本年分は8月中に申し出ること。

〃 8年12月 同上の世話をした役人に対して、心付が出された。

横目3人 銀1両宛 役人4人 銀3両宛

付物書・見習共 錢15匁宛

弘化3年 2月 年賦希望書目について、近年は雑書まで多くなった。以後は、読書・会読等に必要なものだけで、雑書は取り扱わない。訓導・句読師へ通達したところ、軍書等もあるが返却、訓導と相談するように。